

海外感染症流行情報(2012年6月)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

・アジア地域でのデング熱流行状況

東南アジアや南アジアの国々は雨期を迎えており、デング熱患者の増加がみられています。

WHO 西太平洋事務局の発表によれば、6月中旬までにフィリピンで約2万8000人、ベトナムで約1万人、マレーシアで約1万人、カンボジアで約4000人の患者が報告されています(WHO Western Pacific Region HP 2012-6-12)。ほとんどの国の患者数は例年並みですが、カンボジアは昨年の5倍の数となっています。患者の発生は都市部でも多く、6月上旬までにフィリピンのケソンで2000人、マニラで1400人、マレーシアのセランゴール州で5000人の患者が発生しています(米国CDC Dengue Map 2012-6-15, 21)。また、タイの代表的な観光地であるプーケット州でも5月末までに1万人以上の患者が発生した模様です(Pro MED 2012-6-3)。

インドでは南部のケーララ州やタミール・ナードウ州で患者数が増加しています(Pro MED 2012-6-17)。またデリー、チェンナイ、バンガロールなどの都市部でも6月になり患者発生がみられています(米国CDC Dengue Map 2012-6-13,15, 21,23)。

・中国、東南アジアで手足口病の流行(続報)

中国や東南アジアでの手足口病の流行は6月に入りさらに加速しています。WHO 西太平洋事務局によれば中国で約42万人、シンガポールで約2万人の患者が発生しており、これは昨年の3倍近い数となっています(WHO Western Pacific Region HP 2012-6-12)。またベトナムでは昨年の8倍近い5万人の患者がみられ、とくに南部のドンナイ州で急増している模様です(Pro MED 2012-6-14)。

手足口病は口腔粘膜や手足に発疹をおこすウイルス感染症で、日本でも夏季に乳幼児を中心に流行します。予後は良好ですが、稀に脳炎や心筋炎など重篤な合併症をおこすことがあります。飛沫感染や接触感染で拡大するため、予防には手洗いやうがいを励行することが大切です。

・西アフリカでの髄膜炎菌性髄膜炎の流行

西アフリカでは毎年乾期に髄膜炎菌性髄膜炎の流行がみられます。今年も1月～4月の乾期に1万人以上の患者が発生しました(WHO Global Alert and Response 2012-5-24)。ブルギナファソでは5000人以上、チャドでは2000人以上の患者数が確認されています。菌型としてW135型が多くみられました。フランスでも今年の4月までに16人の患者が確認されていますが、このうちの8人はセネガルなど西アフリカ諸国を訪問中に感染した患者です(Eurosurveillance 17-21 2012-5-24)。

髄膜炎菌性髄膜炎には有効なワクチンがあり、流行地域に滞在する際には事前に接種を受けておくことが推奨されます。日本では未承認のため、接種ができるのは輸入ワクチンを扱っている一部の医療機関に限られています。

・日本国内での腸チフス患者数が過去最低を記録

2011年に日本国内で報告された腸チフス患者数は過去最低の21人になりました(感染症発生動向調査 2012年14巻-21号)。このうち14人は海外で感染しており、その地域としては南アジアが半数を占めています。現在の報告システムが稼働した2000年の患者数は86人で、その当時と比べると大幅に減少したことがわかります。なお、パラチフスの患者数は2011年が23例で、2000年の20例に比べて大きな変化はありません(感染症発生動向調査 2012年14巻-22号)。

近年はインドなど南アジアへの渡航者が増加していますが、南アジアでリスクの高い腸チフスの患者数は逆に減少しています。これは、流行地域への渡航者が飲食物の注意など有効な予防対策を実践するようになったためと考えます。さらに、腸チフスワクチンの接種を受けるようになったことも一因と考えます。